

第1学年 道徳指導案

日 時 平成23年11月14日（月）4校時
学 級 1年A組（男子14名、女子15名 計29名）
場 所 1年A組教室
授業者 教諭 佐藤 渉

1 主題名 「校風の樹立」 4－（7）

2 資料名 「合唱のN中」 （自作資料）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について

内容項目4－（7）は、「学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。」である。学級や学校にあっては、生徒一人一人がその役割と責任を果たすことや、教師や学校の人々によって、学級や学校で様々な指導を受けたり支えられたりしながら、人間関係を深め、協力して生活することを通して尊敬や感謝の気持ちがはぐくまれる。また、学校には、それぞれ独自の校風があるが、それは先輩たちの長年にわたる努力によって培われたものであり、後輩たちがそれを継承し、更に協力し合って、よりよい校風へと発展させてきたのである。

中学生にとって、自分の学級、自分たちの学校という愛着や誇りをもつことは大切なことである。しかし、自分の学級や学校への関心やよりよい学級づくりへの意欲は、必ずしも十分とはいえない。更に、学級や学校における状況を見ると、教師や学校の人々への敬愛の情が厚いとは言い難い。そこで、人間としての成長を促すために学校の人々に目を向け、感謝や尊敬の気持ちをもてるようにする必要がある。

学級担任や各教科の教師のもとに、授業やいろいろな活動に意欲的に取り組むには、生徒同士や生徒と教師が、互いに信頼関係をもち、敬愛の念を深める態度を育てることが大切である。そのことによって、よりよい学級や学校生活への土台が築かれる。このような思いを生徒にもたせるためには、伝統に接する機会を増やしたり、生徒同士や生徒と教師が、人間関係を深めたりする様々な体験を通して学校に対する愛着やよりよい校風の樹立と発展に努める態度を育てるよう援助する必要がある。

（2）生徒の実態について

服装やベル席、忘れ物、家庭学習など決められたことを守る生徒が多く、規範意識の高い集団である。自分の考えに自信を持てずにいるため、授業中も積極的に発言をすることが少ない。自分の考えをしっかり持たせ、自分の考えをまとめる時間を設定することで意欲的に授業へ参加させることができると考えた。

部活動や学習では、より高い目標の実現に向け、努力していこうとする気持ちは高いものの、集団の一人として所属する集団をみんなで高めていこうとする意識はまだ育っていない。しかし、入学からの様々な行事や文化祭での活動の中で、学級の目標に向かい互いに讃えあったり、励まし合ったりする場面が見られるようになるなど、集団で行動する意義や喜びを感じ始めている。

(3) 指導の構想

「希望をもって生きる、伝統文化の尊重や発展に尽くした先人の働き、集団への協力」などの音楽科をはじめ、国語科、社会科、体育科などの教科指導と関連させながら培ってきた道徳的価値を、合唱活動を通して道徳的实践に結びつけたい。

そのために、音楽科では、3年生から発声を学ぶ合同授業を、生徒会では、学年合唱交流会を、そして、文化祭前には学年別に学級合唱交流会や運動会時に組織した色組団での縦割合唱交流会などを計画的に実践してきている。

特に、文化祭合唱コンクールに向けて取り組んだ経験は、内在化されていた道徳的価値を道徳的实践として発揮させるものであった。文化祭後には、合唱の取り組みで得たものや協力するときに大切なこと、クラスで頑張っていた人などについて反省を行ってきた。

本時は、文化祭で経験した道徳的価値の補充・統合を図るとともに、卒業式や入学式、さらには上級生として校風を守るという価値へ深化させるためのスタートとして位置づけられている。

【教育活動と道徳の関連（本時を要として位置づけた指導構想図）】

段階	時期	意識の流れ	教科	日常活動	行事	学級活動	
事前の学習 事後の学習	4月	・桜町中学校の合唱は素晴らしい。 ・合唱を頑張ろう。 ・みんなで取り組むことが大切だ。	【音楽】合同授業 【社会】日本の伝統 【国語】古典・伝記 【体育】運動会練習	【合唱タイム】帰りの会合唱 【運動会組団練習】応援やダンスの練習		【運動会の意義】集団での個人の役割 【文化祭の意義】文化祭の目的を理解し学級の目標を決める	
	7月	・文化祭の合唱を頑張ろう。	【音楽】合同授業など	【文化祭自由曲決め】学級にふさわしい選曲	【合唱集会】1学期学級学年合唱発表		
	9月	・学級の一員として自分ができることは何だろうか。	【道徳の時間】主題：集団生活の向上 4－（4）資料「合唱コンクール」（東京書籍） →集団の一員としての役割に気づき、集団生活の向上に努めようと思えることができる。				
	10月	・きれいな歌声を響かせたい。					
	11月	・伝統継承は大切。 ・学校の一員として自分ができることは何だろうか。	【音楽】合唱曲・指揮者・伴奏者指導	【放課後練習】指揮者やパートリーダーを中心とした学級練習	【合唱交流会】運動会組団での発表会 【文化祭】壁新聞・合唱コンクール	【文化祭反省・DVD】文化祭反省・合唱部募集開始	
	1月	・卒業する先輩達のために自分達にできることは何か。	【道徳の時間】主題：校風の樹立 4－（7）資料「合唱のN中」（自作資料） →所属する集団の一員であることに気づき、集団の中での自己の生き方を考えることができる。				
	2月	・卒業式の合唱を頑張ることが先輩への感謝の表れだ。					
	3月	・去年自分達が感じた感動を新入生にも与えたい ・上級生として頑張っていきたい	【音楽】卒業式・入学式に向けた指導	【卒業式実行委員会】パートリーダーを中心とした1,2年合同練習 【リーダー会議】実行委員会が集まり活動反省	【卒業式】最後の授業で感謝と誓いを発表	【卒業式の意義】3年生への感謝の気持ちを伝統の合唱で表す	
	4月			【入学式練習】卒業式で培った力を発揮する	【入学式】新入生に合唱でエールを送る		

4 本時の指導

(1) ねらい

所属する集団の一員であることに気づき、集団の一人として生き方を考えることができる。

(2) 評価規準

リサの決断を考えることにより、学校や地域の一人としての生き方を考えることができる。

(3) 資料について

資料①について

合唱の盛んなN中に入学したリサは、バスケットボール部と合唱部の両立を図ろうと親友のエミカと決心する。二学期になり、バスケットボール部のレギュラーに選ばれたリサは、バスケットボールに専念し、技術向上を目指したい気持ちが大きくふくらんでいく。合唱部への入部を一足早く済ませた親友のエミカ。胸の内を母親に明かすが、娘を心配する言葉に、入部すべきかどうか、リサの葛藤はさらに深まる。

資料②について

答えの見いだせないリサは、合唱部だったバスケットボール部の卒業生から、合唱部へ入部した経緯を聞く。さらに、合唱部七期生である隣人の話を聞くうちに、気持ちはしだいに固まっていく。自分を取り巻く、違う立場の人とのやりとりから、学校や地域の中の一人として存在する自分を自覚させる資料である。

(4) 本時の構想

本資料は、本校生徒の置かれている状況に近い設定で描かれており、生徒は主人公を自分に置き換えて考えやすく、今後の行動に反映しやすい。しかし、その反面、道徳的価値を深化させるべき道徳が、今後の行動を強く示唆する、誘導ととらえられる恐れもある。そのため、自分だったらどうするかというような、自己に返して考えさせる発問は避け、あくまで資料の主人公の気持ちにより添って、ねらいとする価値に迫りたい。

また、生徒の実態から、じっくり考えさせる場面を精選して、ワークシートに記入させる授業形態をとり、生徒一人ひとりが自分の考えを持てるように配慮する必要がある。

導入段階では、あらかじめ調査した「桜町中学校の良さは何だと思いますか」の結果を利用して、本時の意識づけを行う。さらに、資料①にある写真を提示し、N中の良さは合唱であることを確認して範読につなげたい。

展開段階では、二部構成となる資料の前半部分（資料①）の状況を紙板書で整理し、主人公リサが置かれている状況を確認する。合唱部に入部するかどうかで葛藤しているリサが、どう決断するのかを二択で予想させる。予想の際に書かせた簡単な決断理由を、挙手指名により発言させることで、発言しやすい雰囲気をつくりたい。また、発言された内容が、自分のことを考えての決断なのか、友達や母親などの相手のことを考えてのものかを確認し、この後の主人公の心情の変化をはっきりさせたい。資料の後半部分（資料②）を配布し、卒業生との対話、隣人のおばさんとの対話の内容を押さえる。本文から読み取れる部分であり、友達、先輩、先生、地域の人々など多面的な関わりをしっかりと押さえさせることで、中心発問へつなげたい。集団の一員として存在する自分やその中にある自己の役割を自分なりに考えられるよう、ワークシートに記入する時間を十分に確保する。

(5) 展開

段階	時間	学習活動と主な発問 (○・◎)	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	10分	<p>1 ねらいとする道徳的価値を意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜町中の良さは何ですか ・良さはどのようにしてできるのか考えてみたいと思います <p>2 写真提示により、良さが合唱であることを教え「N中の合唱」資料①を範読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱、部活動、勉強 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言がない場合は、事前アンケートから抜粋して紹介。 ・写真の提示。 ・資料①配布。
展開	展開前段 20分	<p>3 主人公リサがおかれている状況を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>リサ＝「わたし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県郡山市合唱で有名 ・バスケ部レギュラー ・親友（エミカ）は入部 ・母親は両立を心配 </div> <p>4 リサの選択について考える。</p> <p>○ リサは、何を悩んでいるのですか。</p> <p>○ リサは、どのように決断するでしょうか。簡単に決断理由も書いてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱部に入部するかどうか <p>○合唱を頑張りたい（自分）</p> <p>○エミカとの約束（相手）</p> <p>●バスケに専念（自分）</p> <p>●母親が心配（相手）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テンポよく教師主導で進め、内容を紙板書する。 ・ワークシート配布 ・自分のことや相手のことを考えて判断したことに気づかせる工夫。 ・資料②配布。リサが何を考えて決断するのか意識づける。 ・シート記入。
		<p>5 「N中の合唱」資料②を範読する。</p> <p>6 リサの心情の変化について考える。</p> <p>○ ミサキ先輩はどうして苦しい練習を続けられたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣のおばさんの話を整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>* N中合唱部の七期生 * 合唱発表会が楽しみ * 遠くからも来る</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を高めたかったから ・伝統を守ろうとしたから 	
展開後段	10分	<p>7 「校風の樹立」について考える。</p> <p>◎ 「その言葉にハッとした」のはなぜでしょうか。(板書は簡潔に)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統の継承を喜んでいるから。(学校の伝統) ・地域の人や卒業生の思い出が詰まった合唱部だと気づいたから。(地域の伝統) 	<ul style="list-style-type: none"> ・シート記入。 ・バスケや勉強に専念する向上心も大切なことを話す。
終末	10分	<p>8 授業の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業の感想を書きなさい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の伝統も考えて行動することが大切。 	

主な場面	主人公の意識	学習者の意識	意識の焦点化	主な発問
合唱の有名校に入学。バスケの他に、合唱部へも入部しようと親友と決意する。	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい合唱を聞いて、わたしも歌いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱部のある学校はどこも似ている。 	←入学当初の主人公の気持ちや合唱部の状況について把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公リサの状況把握。
3年生引退後、バスケ部のレギュラーとなり練習に打ち込むうちに、合唱部との両立に不安を感じ、母親に相談。	<ul style="list-style-type: none"> ・レギュラーの座を渡したくない ・エミカと一緒に頑張りたい ・勉強も両立しなければいけない 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部に専念した方がいい。 ・合唱部にも入って頑張った方がいい。 ・どうしたらいいかわからない。 	←バスケが楽しくなっていること、両立には不安があることをとらえ合唱部へ入部するか迷う主人公に共感する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リサは何を悩んでいるのですか。 ・リサはどのように決断するでしょうか。(入部する・しない)
ミサキ先輩から合唱の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱部の一員になりたかった ・合唱を守るために入部した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱を通して自分を高めることができる。 ・合唱を守るとは伝統を守るということ 	←先輩の体験談に耳を傾けながら合唱をするこの意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミサキ先輩はどうして苦しい練習を続けられたのだろうか。
隣のおばさんから合唱を頑張ってくれていることがうれしいと聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統を受け継ぐことに価値がある。 ・苦しくても頑張れるのは自分たちを見守ってくれる人たちがいるからだ。 ・学校にいる自分たちだけの問題ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱に寄せる思いが地域にはある ・卒業した先輩達は合唱を守って欲しいと思っているにちがいない。 	←学校よりももっと大きな集団の中に伝統は息づいていることに気づく。	◎「その言葉にハッとしたのは、なぜでしょうか。」

道徳シート

「合唱のN中」

1年 組 番 氏名 _____

1. リサは、どのように決断するでしょうか。簡単に決断理由も書いてみよう。

決断（入部する・入部しない） 理由

2. ミサキ先輩は、どうして苦しい練習を続けられたのだろうか。（シートには書かれていない）

3. わたしが、その言葉にハッとしたのはなぜでしょうか。（シートには書かれていない）

4. 授業後の感想

合唱のN中



リサいわし

福島県郡山市合唱で有名
バスケット部レギュラー
親友（エミカ）は入部
母親は両立を心配

リサの選択は？

入部する

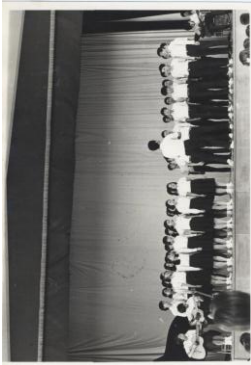
- ・合唱を頑張りたい（自分）
- ・エミカとの約束（相手）

入部しない

- ・バスケットに専念（自分）
- ・母親が心配（相手）

ミサキ先輩はどうして苦しい練習を続けられたのだろうか。

- ・お互いを高めようとする仲間がいたから
- ・純粋に合唱部の一員になりたかったから



隣のおばさん

N中合唱部七期生
合唱発表会が楽しみ
遠くからも来る

「その言葉にハッとした」

のはなぜでしょうか。

- ・伝統の継承を喜んでいたら（学校の伝統）
- ・地域の人や卒業生の思い出が詰まった合唱部だと気づいたら。（地域の伝統）

『合唱のN中』



わたしの住んでいる福島県山市は、合唱の盛んな地域であり、その中でもN中は、全国大会へ何度も出場する有名校だった。そんなN中に入学したのは、

今年の春のことである。入学式で聴いた先輩方の歌声は、これから始まる中学校生活へのエールに思えた。小学校時代から、続けてきたバスケット部を希望しているが、合唱部もいいなと感じた。

N中には合唱部はなく、野球部やテニス部、吹奏楽部、バレエ部などの部活動を終えた生徒が、夕方五時から音楽室に集まり、特設部として活動している。合唱部に入部するという事は二つの部活動をこなすことになるため、下校時刻が遅くなり、自由な時間も持たなくなる。そんな合唱部を支えるのは、音楽の立花先生だ。コンクールが近づく八月には、お盆さえも休まず指導に当たっていた。立花先生の熱心さもまた、合唱部が力を発揮する源なのだと思う。

一学期の終わり頃、先輩たちの歌う姿をビデオで見る機会があった。とぎすまされたソプラノの高音では鳥肌が立ち、男声のお腹に響く重厚な歌声に迫力を感じた。想像を絶する演奏に、「すごい。うまい。わたしもあんな合唱をしてみたい。」ビデオを見て、わたしの合唱部への憧れは増した。授業を終えた後、わたしは親友のエミカと相談し、十月の入部時期になったら、誰よりも早く入部届を出そうと約束した。

しかし、七月になり、わたしの生活は一変した。所属していたバスケット部の先輩たちが引退し、少しずつ試合に出してもらえるようになったのだ。夏休み中も毎日朝から晩まで練習を続けた。その甲斐あって、わたしは新人大会のレギュラーに選ばれた。顧問の先生に自分の名前を呼ばれた時は、天にも昇る気持ちで、「今まできつい練習を乗り越えてきて良かった」と思った瞬間だった。新人大会後も、わたしはチームの主力としてバスケットボールに励んだ。土日は練習試合や大会に明け暮れ、来る日も来る日も練習に取り組んだ。

文化祭が終わった十月、いよいよ合唱部の募集が始まった。わたしは、迷いはじめていた。「今ここで合唱部に入部すれば、レギュラーの座を誰かに取られてしまうかもしれない。もつと、もつとうまくなくて活躍したい。今までの練習に、さらに合唱も加え、両立することができたらどうか。」そんなことを考えながら一人で帰るわたしに、後ろからエミカが話しかけてきた。「わたし、昨日、合唱部に入部届出したよ。リサも出したでしょ。」やる気に満ちたキラキラとした表情のエミカを見ると、目をそらさずにはいられなかった。

家に着いたわたしは、無言で足早に階段を駆け上がった。いつもと違う私の様子を見て、母が部屋までやってきた。わたしは母に合唱部のことを話してみた。「あなたに両立なんてできるの。中途半端に入部したって周りに迷惑なんじゃないの。それに勉強だって。最近成績も下がりが味だし。これからどんどん難しくなっていくのよ。」母の一言は、わたしの心に重くのしかかってきた。

答えの出せないまま時間は過ぎていった。重い足取りで部活動に向うわたしの目に、ミサキ先輩の姿が飛びこんできた。ミサキ先輩は高校の部活動の合間をぬって、よく中学の練習に顔を出してくれる先輩だ。部活動が終わったあとで、合唱部だったミサキ先輩に、わたしは思い切つて聞いてみた。「先輩はどうして合唱部に入ったのですか。何も迷わなかったのですか。」

すると先輩は、言った。

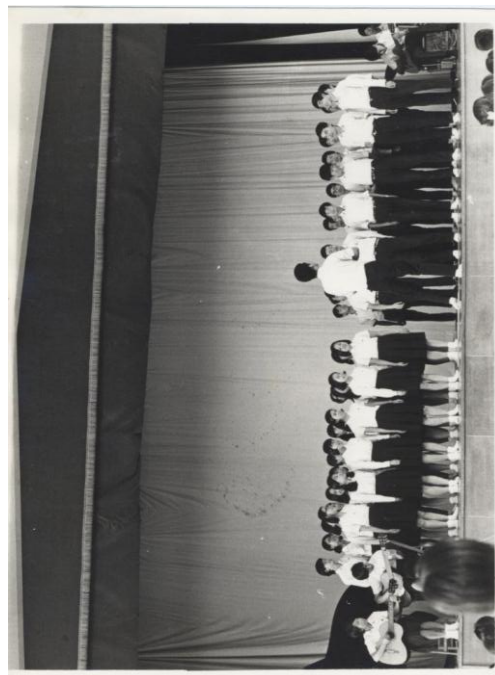
「わたしは純粋にN中の合唱部の一員になりたかった。わたしは、たいして歌が得意でもなかったし、自信もなかったよ。でも、N中合唱部の一員として苦しい練習に参加できるのは、なんだかうれしかった。だから、がんばれたのかな。リサは、N中の合唱を何だと思ってるの。そんな気持ちで合唱を守るの。バスケットと合唱どつちが大切か、なんて考えてるならやめた方がいいよ。」

落雷のような衝撃だった。「合唱を守る？」その言葉が頭から離れなかった。

家に帰ると隣のおばさんがきていた。「リサちゃん、今年の合唱発表会はいつかしら。同窓会の人々に教えなくちやいけないのよ。こう見えてもわたし、N中合唱部の七期生なの。年に一度の発表会をみんな楽しみにしてるのよ。遠くからわざわざ来る人もいるのだから。去年は全国大会で久しぶりの金賞を受賞したでしょ。だから、とてもすごかったじゃないの。来年も聴きたいから、日にちがわかったら教えてくれつて頼まれてるのよ。」

わたしは、合唱発表会は、来週の日曜だと教えた後で、「去年と違って、今年は全国大会にいけるかどうかはわかりませんよ」とつけ加えた。すると、おばさんは、ゆつくりと話し始めた。「全国大会にいけるから、

聴きたいのではないのよ。全国なんてどうでもいいの。だってそらでしょ、うまい合唱を聴きたいのなら、プロのコンサートに行けばいいだけなもの。ここに来たいのは、自分の可能性を信じて、ひたむきに頑張ってくれる後輩達にあえるからなのよ。」おばさんの目には、うつすら涙が浮かんでいた。



「少しでも理想の歌声に近づこうと、お互いが励まし合いながら歌ってた、あの頃の自分達を思い出すのよ。何年たつてもN中には、あの合唱が生きている。N中は昔と変わらず、合唱を頑張ってくれるつてことが、うれしいだけなの。」わたしは、その言葉にハツとした。

入部届締切日を明日に控えた夜。わたしは、自分の気持ちを整理してみた。レギュラーのこと、エミカのこと、ミサキ先輩のこと、隣のおばさんのこと。そして、いよいよ当日の朝を迎えた。

「決めたよ、お母さん。わたしね……」

(生徒作文より抜粋)